

学校の教育活動から

○テーブルマナーランチ

3月5日(木)に5年生の子どもたちが「テーブルマナー」の講習を受けるためにヒルトン福岡シーホークに行きました。会場のある34階の高層から見る景色は大変素晴らしく、その景色を背景に豪華な食事をいただきながら、「テーブルマナー」を教えていただきました。今回の講習で学んだことは、修学旅行のホテルでの夕食の際に生かされることでしょう。



○ドローン教室

九州情報大学の車教授にお越しいただき、6年生のみんなを対象に「ドローン教室」を行っていただきました。ドローンの仕組みや活用等について説明していただいた後に、実際にドローンを飛ばす活動をしました。子ども達は、次第に操作に慣れ、楽しくドローンを飛ばすことができていました。この「ドローン教室」も6年目を迎えますが、年々、その性能も良くなってきているように感じます。きっと、これからの将来は、ドローンがさらに様々な場面で有効活用されることでしょう。



感じたことから

○「残り姿」

日本語の美しい表現はたくさんありますが、その中に「残り姿」という言葉があります。「残り姿」というのは、「終わったあとの姿」「その場からいなくなったあとの姿」を感じることを言います。「その場にいた人々の心が想像できる、気持ちのよい姿」のこととして使われます。

学校でこの言葉を用いるなら、子ども達が帰った後の誰もいなくなった「教室」で感じるすることができます。今日一日の生き生きとした活動の姿が、静かな教室に「残り姿」として思い起こされます。

さらに学校には、もっと深く大きい「残り姿」があります。それは、「卒業式」が終わった後の学校です。6年生の皆さんが、この6年間、積み上げてきた学びの姿、生活の姿が、卒業後、誰もいなくなった校舎や運動場で静かに蘇ることでしょう。

6年生の皆さんの姿が私達の心にどう宿るかは、これまでの6年生のみなさんの在り方が反映するはずです。「1年生を遠足でお世話をしている姿」「縦割り班でのリーダーシップ」「受験勉強に向かう学びの姿」「運動会を盛り上げる姿」…等が「残り姿」として、きっと蘇ることでしょう。

そうした中、さらに、先週、6年生がまさに「残り姿」と成り得る素晴らしい姿を見せてくれました。それは、「英語スピーチ集会」です。過去の卒業生がこのスピーチ集会では語ったことのないほどの長文を、それぞれが暗記し、滑らかなスピーチとして披露してくれました。6年生の実力を改めて示してくれるとともに、下級生には「私もあんなにしっかりと英語が話してみたい。見習いたい。」と思える憧れの対象としての姿でした。きっと、6年生が卒業した後には、多目的ホールで堂々とスピーチをしている姿が、全校のみんなに「残り姿」として蘇ってくることでしょう。



6年生の小学校生活も残り1週間ほどになりました。僅かな期間ですが、卒業後に在校生のみんなが、6年生の「どのような「残り姿」から「どのような「心」を感じるかを考えて充実した数日間を過ごしてほしいと願っています。そして、その「残り姿」が学校の「校風」となり、「伝統」となって、受け継がれていくことでしょう。